

第 7 回町田市長期計画審議会議事概要

1 **開催日時** 令和 2 年10月30日（金） 午後 3 時00分～午後 5 時00分

2 **開催場所** オンライン会議

3 **出席者**

<委員>

（学識）大久保英敏会長、三輪律江職務代理、芳賀博委員、小林保子委員

（市民団体）深澤勝委員、安達廣美委員、小野敏明委員、大野太郎委員、清原理委員、
櫻本千恵子委員、上坂孝博委員

欠席：（市民団体）野澤哲也委員

<事務局>

小池政策経営部長、浦田企画政策課長、水越経営改革室長、押切経営改革室課長、
樋口企画政策課未来づくり担当課長、山田企画政策課担当課長、

（企画政策課）山岸、新井、中村（経営改革室）近藤、猪熊

4 **傍聴者**

1 名

5 **次第**

1 開会

2 報告事項

（1）第 6 回審議会の振り返り

（2）議会の決議について

3 議事

（1）（仮称）まちづくり基本目標について

（2）（仮称）経営基本方針について

（3）（仮称）まちだ未来づくりビジョン 2 0 4 0 素案について

4 その他

2 報告事項

(1) 第6回審議会の振り返り

- 議事録を踏まえ、前回審議会の振り返りを行った。

(2) 議会の決議について

- 事務局
 - ・議会から出された9つの決議事項に対して、計画の対応箇所について報告を行った。

3 議事

(1) (仮称) まちづくり基本目標について

【政策1】

- 三輪委員
 - ・保育という言葉が前面に出ているのが気になる。例えば「保育サービス」とすると保育園に特化したように感じる。一時預かりや預かりあう場も含め「多様な預かり方の充実」などとしてはどうか。
- 小林委員
 - ・ここでいう“保育”の範囲がどこまでなのかで変わってくる。概要を見ると多様な保育の形態、というイメージがあるが、赤ちゃんから幼児期までだと大きな意味の保育としてとらえたほうが適切でないか。
- 事務局
 - ・小林委員のご理解の通りで、保育という言葉でどうかと考える。
- 小林委員
 - ・預かり保育は、多様な保育より狭い意味である。もう少し細かく概要に内容を記載すれば、多様な保育というキーワードは変えなくてもよい。
- 三輪委員
 - ・「保育」というと保育所がやるものとのイメージが強いため、保育が一般の方にも広く理解されるように考えられるとよい。特に「保育サービス」は行政がやるものに見え、養護、教育のニュアンスが落ちる懸念がある。
- 会長
 - ・概要のところで補足説明をする。
- 芳賀委員
 - ・概要のところで、なぜ「小学生を対象として」という表現になっているのか。幼児期の虐待防止も含まれると思うが。
- 事務局
 - ・現状のとりくみが小学生になっているためであるが、なくてもよい。
- 会長

- ・小学生を対象としたという文言を削除する。

○深澤委員

- ・事業所の育児休業の取得など、復職に関わるキーワードを入れてはどうか。

○三輪委員

- ・「周囲や地域の人～」 「事業者も一丸となって」などの文言にしてはどうか。社会が一丸となって取り組むようなニュアンスがはどうか。

○会長

- ・今の文言を追加する。

【政策2】

○深澤委員

- ・キャリア教育の推進」の概要のところ「ものづくり」に特定しなくてよいのではないか。例えば「多様な職業に対する関心を高める」としてはどうか。

○会長

- ・この文言に変えることで検討をお願いします。

○三輪委員

- ・指標について「教育環境が整っている」という一つのもので測れるのか。UNISEF自己有用感など、子どもの意思を反映した指標を追加できないか。裏でユニセフFCFI委員会を実施しているので、そこと連動できるとよい。

○事務局

- ・指標の数値を取る際に、子どもの意思を取得するためには、教育現場の協力が必要になり、確認する。

○小林委員

- ・コミュニケーション能力の育成を市は推進しているのか。コミュニケーション能力だけでなく、問題解決能力も追加できないか。

○事務局

- ・町田市では英語教育に力を入れている。そうした面も踏まえてコミュニケーションとしている。指摘の点も含めるかどうか検討する。

○芳賀委員

- ・「児童・生徒の学力向上や児童・生徒の体力向上」に統計調査の分析とあるが、どこに焦点をあてて分析するのが見えないので、具体性が見えるとよい。統計調査も列挙されているものに限定してしまうのは、視点が狭まる。

○事務局

- ・具体性については、実行計画で分析内容も含めて記載することを検討する。
- ・統計調査を絞らないように「等」を加える。

○小野委員

- ・英語教育力入れていると思うが、他にもスポーツ関係にも力を入れるべきではないか。
また、問題解決能力だけでなく、子どもたちが自ら課題を選んで、意見を出し合い、解決していく力、課題解決能力が必要ではないか。

○事務局

- ・主体性については、子どもの参画が該当すると思われる。
- ・概要の書きぶりなど、教育員会と調整する。

○桜本委員

- ・教員のライフワークバランスという記載があるが、ワークライフバランスに統一すべき。

○事務局

- ・表記を統一する。

○大野委員

- ・2-3の⑦の1つ目。「質の高い教育環境を受け」は表現として違和感がある。「教育環境のもと」「質の高い教育を受け」のどちらかにしてはどうか。また、ICTを活用した遠隔教育は不登校支援にも活用できると考えているため、このあたりとの連携も考えていただきたい。

○事務局

- ・文言修正し、不登校支援についても検討する

【政策3】

○深澤委員

- ・3-1の指標の付加価値額の増加とはどのような意味か。額は必要なのか。

○事務局

- ・産業部門の担当課に確認する。

○清原委員

- ・これまで実施している取組をよりよくするものと、これから新たに実施するものが混在しているので、計画の完成までに分かるように言葉の整理をするとよい。

○深沢委員

- ・取り組み名「身近に農のあるまちづくり」の記載が分かりにくい。町田市 of 農業が地産地消で市民に身近になるなどを加えてはどうか。

○三輪委員

- ・地産地消だけでなく、農に参加する、農に関する活動を促す、関わる人を増やすという表現もあるとよい。

○事務局

- ・伝わりやすい記載内容を検討する。

○芳賀委員

- ・「自分らしい場所、時間」の指標について、アンケートを実施する場合1つの質問に2

つの要素が入ることになる。アンケートで取るのであれば、分けたほうがよい。

○事務局

- ・質問のきき方は工夫する。

○会長

- ・指標は複数あっても良いと思うので、今後ご意見いただいて増やすことも考えられる。

【政策4】

○会長

- ・大学との連携という話があったが、町田市から連携をお願いすることは可能なのか。

○事務局

- ・現在もお願いしており、今後もお願いしたい。

○深澤委員

- ・町田市はサッカー、ラグビー、フットサルのプロチームがある珍しいまちである。せっかくある資源なので面でスポーツの「みる」部分を充実してはどうか。

○事務局

- ・表現を検討する。

○安達委員

- ・これまでもスポーツ施設の提案はあったが、音の問題でだめになった経緯がある。それも踏まえた位置づけにすべき。

○事務局

- ・地元の協力をいただきながら進めるのは基本になる。実行計画に事業を位置付ける中で検討していく。

○清原委員

- ・学習とスポーツがあるが、文化についてはどこに位置付けられるのか。

○事務局

- ・文化は政策7に整理している。

【政策5】

○芳賀委員

- ・政策指標は健康寿命になっているが、それに加えて人生の豊かさを測るため「いきがいのある人の割合」などを入れてはどうか。5-1の指標に「主観的健康感（一般高齢者）」があるが、一般高齢者に限定せず、要介護者なども含めていいのではないか。

○事務局

- ・複数指標の設定を検討する。一般高齢者については、指標が取れるのであれば要介護者を排除せず広く対象とする。

○深澤委員

- ・高齢者の就労の部分が弱いと思う。働ける高齢者が働けるような仕組みをつくるようなことも考えてほしい。

○三輪委員

- ・高齢者の健康な住まいづくり、住宅政策的なものは今回どこに入るのか。

○事務局

- ・政策8に住宅は記載しているが、高齢者に特化しているわけではないので、政策5に高齢者の住まいに関わるものがあったらよい。

○芳賀委員

- ・高齢者の住宅施策について、バリアフリーなど、政策9に入れることも可能ではないかと思う。

○小野委員

- ・社会福祉協議会でも検討しており、5-1と5-2についてはいいと思う。この施策の推進を社協としても取り組んでいきたい。

○事務局

- ・住宅の話は、政策5、8、9のいずれに入るのか担当課と検討していく。

○会長

- ・住宅については他の分野との関連があるため、引き続き議論が必要だと思う。横断的な議論が今後できるとよい。

【政策6】

- ・意見なし

【政策7】

- ・意見なし

【政策8】

○深澤委員

- ・指標に「市外の人に薦めたい場所が思い浮かぶ市民の割合」があり、これはよいが、場所で何が行われているかも大事なので、「場所（もの・こと）」などとしてもいいのはないか。また、拠点駅と中心市街地とで文章は切ったほうがわかりやすい。

○三輪委員

- ・8-2の指標「住み替えした世帯数」の意味合いが分かりにくい。また、指標と内容の対応の精査が必要。

○事務局

- ・高齢になって住み替えるなど、ライフステージに応じて、住み替えをした世帯の意図で

ある。担当課と内容を精査する。

【政策9】

○三輪委員

- ・この政策は災害・防災に関わるものと理解した。そうなる就先に議論になった住宅や心の健康などはどこに位置づけられるのか検討が必要である。

○会長

- ・次回、横断的な取り組みになる住宅や健康などについて議論できる場をつくりたい。

○事務局

- ・「なりたい姿の実現に向けた取り組み」について、取り組みだと下に紐づく事業とのレベル感に合わないため、「なりたい姿の実現に向けた施策展開の方向」に名称を変更したい。

2 (仮称) 経営基本方針について

【基本方針1】

- ・意見なし

【基本方針2】

- ・意見なし

【基本方針3】

○芳賀委員

- ・「指標案なし」ではなく、なにか設定してはどうか。共創であれば「他の自治体と連携して実施している事業数」などが考えられるのではないかと。

○事務局

- ・指標案については設定するように検討する。

○三輪委員

- ・公共施設について、建物だけでなく公園のPFIなども含まれるのか。

○事務局

- ・具体的にはまだ決まっていないが幅広く考えている。

3 (仮称) まちだ未来づくりビジョン2040素案について

○会長

- ・政策6～8の意見が少なかった。持続可能や環境のことも重要な視点になるため、今後こうした部分でも議論していきたい。

○三輪委員

- ・指標が思ったより全面にでるので、内容やバランスを考えなくてはならない。指標も既存のものと新たなものが区別でるとよいのではないか。

○事務局

- ・紙面については今後デザインが入るので印象は少し変わるかもしれない。

○小野委員

- ・教育委員会はどの程度この計画策定に関わっているのか。

○事務局

- ・政策2の部分は特に中心になって作成しており、部会等も開催している。

○大野委員

- ・未来づくりビジョンの冊子について、キャッチコピーが表紙に出ないのがもったいないと思う。計画の周知の意味でもぜひ表紙に計画の副題として示していただきたい。

○会長

- ・私も表紙にあると良いと思う。

○安達委員

- ・新たな学校づくり検討会でもいろいろな意見が出ているが、その内容も反映されていると思う。

4 その他

○大野委員

- ・企画政策課の音声が小さく聞き取りづらかった。次回は調整をお願いしたい。

○事務局

- ・次回留意する。
- ・次回は来週11月6日に開催させていただく。今日話せなかった分野横断的な話についても検討する。

以上